前年度（令和５年度）の学校評価

ア　自己評価結果等

本年度の 重点目標	・観点別学習状況の評価に則り適切な評価を行いながら、根拠ある評価を実施する。 ・ＩＣＴを適切に学習活動に取り入れ、その活用を図る。 ・総合的な探究の時間を、探究型中高一貫教育校の学習内容として適切なものに改善する。 ・「県立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する方針」（上限方針）の内容について職員が理解するとともに、部活動の在り方について働き方改革の観点から見直し、可能な改善策を実施する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (教務部) (進路指導部) (学年会) (各教科会)	①進路実現に必要な学力の定着と家庭での学習時間の確保	授業内容や生徒の姿に応じてＩＣＴを活用し、魅力ある授業を展開する。また、ＩＣＴを主体的に学習する姿勢を身に付けさせる道具として活用する。	あいちラーニング推進事業において、観点別学習状況の評価を踏まえた授業改善に取り組む中で、ＩＣＴを活用した授業についても研究が進んだ。
	②新しい時代に必要となる資質・能力の育成	自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくための資質・能力の養成を図る。	各教科の授業や総合的な探究の時間において、グループ活動や発表活動が多く取り入れられ、主体的に学習に取り組む態度の育成が進んでいる。
	③教員研修の充実、授業の改善	研究授業や公開授業をとおして、授業内容の改善を図る。	あいちラーニング事業を中心に、各教科で研究授業を行ったり、ＩＣＴ支援員による現職研修を行ったりすることができた。
進路指導 (教務部) (図書･研修部) (進路指導部) (学年会) (各教科会)	①３年間を見通した系統的進学指導計画の確立	生徒・保護者の進路意識と社会情勢の変化に対応できるよう、系統性のある進学指導体制を作る。	新課程入試についての情報共有を進めた。意識の喚起は行えているが、３年間を見通した進学指導体制の確立までは時間をかけていく必要がある。
	②生徒及び教員の進路意識の高揚	本校の進路指導の在り方に関する教員間の共通理解を促進させる。	ICT を利用したデータを扱う講習会を行った。Teams 等を活用して情報共有を進めているが、浸透しきっていなかったり見逃しがあったりする。
	③理数教育・国際理解教育の充実	大学や研究機関との連携を積極的に図る。外部講師を招いての講義や長期留学生受け入れ・派遣、国内外プログラムを実施する。	各学年国際理解講座を計画通り実施すると共に、コロナ明けになり、長期留学派遣、留学生受け入れ、オーストラリア語学研修や夏の国内プログラム等多岐に渡る国際交流事業を実施できた。
生徒指導 (生徒指導部) (保健部) (学年会)	①いじめの早期発見・早期対応	いじめを把握するために心のアンケートを年に３回実施する。	「いじめ対策委員会」を開催し、情報共有と今後の対策について協議することができた。
	②心身ともに健康的な学校生活の確保	相談活動を充実させ、生徒の心の問題に適切に対応する。スクールカウンセラーを有効活用する。	生徒の問題について情報共有を図ることができた。しかし、心に問題を抱える生徒は多く、より丁寧な対応が必要である。
	③清潔な生活環境の整備	美化意識を高め、積極的な清掃活動を推進する。	各学年、LT を利用して美化活動を積極的に行うことで校内美化を推進した。
その他 (総務部) (特別活動部) (教務部)	①家庭、地域や同窓会との緊密な連携	西尾高校をとりまく地域の課題についての意識を高める。	地域防災の視点から、意見交換はできた。学校行事等も含め、より具体的に協力していただける分野や可能性を探ることが求められる。
	②学校行事を通じた自己有用感の育成	球技大会と学校祭を中心とする学校行事において、生徒ひとり一人が自分の得意とする分野での力を発揮できる場面を提供する。	天候に左右されながらも、学校行事を実施することができた。熱中症対策、ICT 機器の利用など社会の変化に対応することが必要である。
	③校務のＩＣＴ化と個人情報の管理	情報管理の徹底とスクールエンジンを中心としたネットワークを活用する。	各種校務へのスクールエンジンの利用について、より使いやすくなるように改善を進めた。
学年　３年	生徒個々に応じた進路実現	多様な生徒に対して、全体指導・個別指導・進路講演会等を通して、適切な指導・助言を与える。	生徒個々の目標の達成に向けて、主体的に最後まで粘り強く学習に取り組むように全校体制で指導できた。
学年　２年	生徒個々に応じた学力の充実と進路学習	進路行事・面接を充実させ、総合的な探究学習とも連携しつつ授業・課題を密接に連携させ学力充実を図る。	日々の課題や部活動に加えて、総合的な探究学習に関する活動においても各自で取り組み、充実した日々を送ることができた。
学年　１年	適切な類型（文理）選択	面接や講演会を通じて将来像をえがく。自分自身を深く知り、職業や大学の研究を行う。	LT や総合的な探究の時間において、夢ナビ研究や卒業生講演会などを通して文理選択を進めることができた。
総合評価	・観点別評価は、生徒の約 60%から指導と評価の一体化に対して良好な回答を得た。今後、より一層その改善に取り組んでいく必要はある。 ・ＩＣＴの活用は、生徒の約 60%から有効活用されているという回答を得たが、学年間で回答に差が生じているので、今後、学校全体でその活用をより一層推進していく必要がある。 ・総合的な探究の時間は、本年度、プロジェクトチームをつくり、「西尾学」を中心に内容の充実を図ることができた。 ・働き方改革は、在校時間の削減には一定の成果をあげてきたが、働き方改革の観点からの部活動の在り方については、抜本的な改善を図ることができなかった。		

イ　学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	・観点別学習状況の評価に則り適切、かつ根拠ある評価を実施する。 ・ＩＣＴを適切に学習学童に取り入れ、その活用を図る。 ・教員の働き方改革に向けて、時間外在校時間等の上限を超えることがないように、部活動の在り方の検討や業務の平準化等に向けた取組を実施する。
自己評価結果について	・生徒アンケート結果から、１、２年生の約 65%が観点別評価を意識した授業が実施されていると回答している（p.11 アンケート質問３　参照）。各教科にて、考査問題の改善や考査以外での評価への取組が浸透してきた。今後は、その指導等が適切な評価と一体化となっているかは、継続的な検証が必要である。 ・「あいちラーニング推進事業」を通じて、全教科においてＩＣＴを活用した授業実践や指導と評価の一体化について取り組むことができた。今後はその実践を基に、より良い教育活動に向けて、改善していくことが必要である。 ・生徒アンケート結果から、ＩＣＴ機器の活用は浸透してきているが学年間で差が生じてきている部分もあることがわかる（p.11 アンケート質問２　参照）。また、生徒用タブレットの持ち帰り可への転換やや Teams を活用した学習活動の促進には課題が残る面がある。 ・昨年度から校舎施錠時刻を 30 分早めるなど、業務改善（在校時間縮減）は進んでいるが、業務の平準化までには至っていない。 ・職員アンケートの回答を受け、出張・休暇の校内届システムや応答メッセージの活用など、改善可能な内容は改善を図ることができた。 ・部活動において、複数顧問の配置や部活動総合指導員等を活用することで、指導面における教員の負担軽減に対しては幾分か対応することができた。しかし、部活動数の適正化について検討するまでに至らず、課題が残った。
今後の改善方策について	・ＩＣＴに関しては、先回の公開授業を参観し、深く調べる表現するために活用しており、中学校での使用目的から進化している。今後も継続的に活用してもらいたい。 ・働き方改革は、子供たちのためになっているかが課題である。その観点で業務改善をしていく必要がある。 ・働き方改革はあまり進んでいない。ＰＴＡとしても協力をしたいと考えている。例えば、校外模試の試験監督などをＰＴＡで担っても構わない。 ・自分の考えを言葉で発信する力を身に付けさせて欲しい。 ・子供の様子を見ていると、学習だけでなくさまざまな場面で良い仲間の出会えていると感じる。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・進路に関する情報を保護者向けに発信してもらいたい。 ・西尾高校で実施している「西尾学」が、義務教育段階で実施している郷土学習と併設中学校の探究学習と上手くつながっていけば良い。 ・制服に関しては、従来の制服とブレザー型制服と選択制になると良い。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成…学校評議員４名、学校関係者（保護者代表）３名 ・評価時期…３月４日（月）